

長井市（東北ブロック）

【計画期間 平成28年4月～33年3月】

- ・江戸～最上川の舟運が開かれると物資運搬の集積地となり商業都市として発展した。
- ・大正～国鉄長井線が開通し、最上川沿いから鉄道の間化市街地が形成された。
- ・昭和～大手企業の立地により高度経済成長期には企業城下町として発展した。
- ・人口27,716人(平成27年国勢調査) 面積214.69Km²

【中心市街地をめぐる状況】

○山形鉄道フラワー長井線が近隣1市2町を通り、国道287号が広域的な幹線道路として南北を縦貫している。長井駅は市内高校生や高齢者、市外からの訪問者の交通拠点となっている。

○大手企業の撤退や郊外に大型商業施設が立地したことにより商業活力が低下している。

○都市機能が集積しているものの、休日の歩行者通行量が少なく、消費需要の流出が懸念される。

【中心市街地に関する指標の推移】

○中心市街地における創業事業所数
H22:1件→H26:4件

○まちなか観光客数
H22:206,911人→H26:177,754人
(▲29,157人、▲14%)



| 目標 | 指標 | 基準値 | 目標値 |
|-----------------|-------------------------|----------------------------|--------------------------|
| まちなかの にぎわい創出 | 歩行者通行量 (休日) | 190人/日 (H26) | 397人/日 (H32) |
| | 中心市街地における 創業事業所数(年間) | 平均1.6件/年 (H22～H26の平均) | 平均4.6件/年 (H28～H32の平均) |
| 交流人口の拡大 | まちなか観光客数 (年間) | 199,657人/年 (H24～H26の平均) | 393,057人/年 (H32) |

【目指す中心市街地像】

人、モノ、情報をト・メ・る

「人、モノ、情報をト・メ・る」は、交流人口の拡大(step1=停める・止める・泊める)を図り、まちなかのにぎわい(step2=留める)を創出し、中心市街地の富める(step3)につなげ、魅力あるまちを目指すもの。

まちなかのにぎわい創出

- 【主要事業】
- ・観光交流センター整備事業
 - ・本町複合施設整備事業
 - ・観光地域づくりプラットフォーム事業
 - ・公共複合施設整備事業
 - ・本町テナント整備事業
 - ・起業・創業支援事業
 - ・まちなか活性化支援事業 など

交流人口の拡大

- 【主要事業】
- ・観光交流センター事業(再掲)
 - ・観光地域づくりプラットフォーム事業(再掲)
 - ・フットパス周辺環境整備事業
 - ・長井市定住促進支援事業
 - ・フラワー長井線再生事業
 - ・観光ボランティアガイド事業 など

長井市中心市街地活性化基本計画の事業概要

まちなかのにぎわい創出

①本町複合施設整備事業

観光交流センター及び長井駅からまちなかへ来街者を誘導する拠点として、本町中央十字路周辺に整備し、まちなかのにぎわい創出を図る。



①本町複合施設イメージ

②公共複合施設整備事業

子育て世代等の交流施設を整備し、長井駅周辺からにぎわいをまちなかに波及させる。併せて都市福利の環境向上を図る。



②公共複合施設イメージ

③起業・創業支援事業

市内の空き店舗等を活用して創業を希望する者に対して支援することで商業及び商店街の振興を図る。

交流人口の拡大

④観光交流センター整備事業

車で来街者をターゲットとしたまちなか誘導の拠点として、にぎわい作りと商業活性化を図る。



④観光交流センターイメージ

⑤観光地域づくりプラットフォーム事業

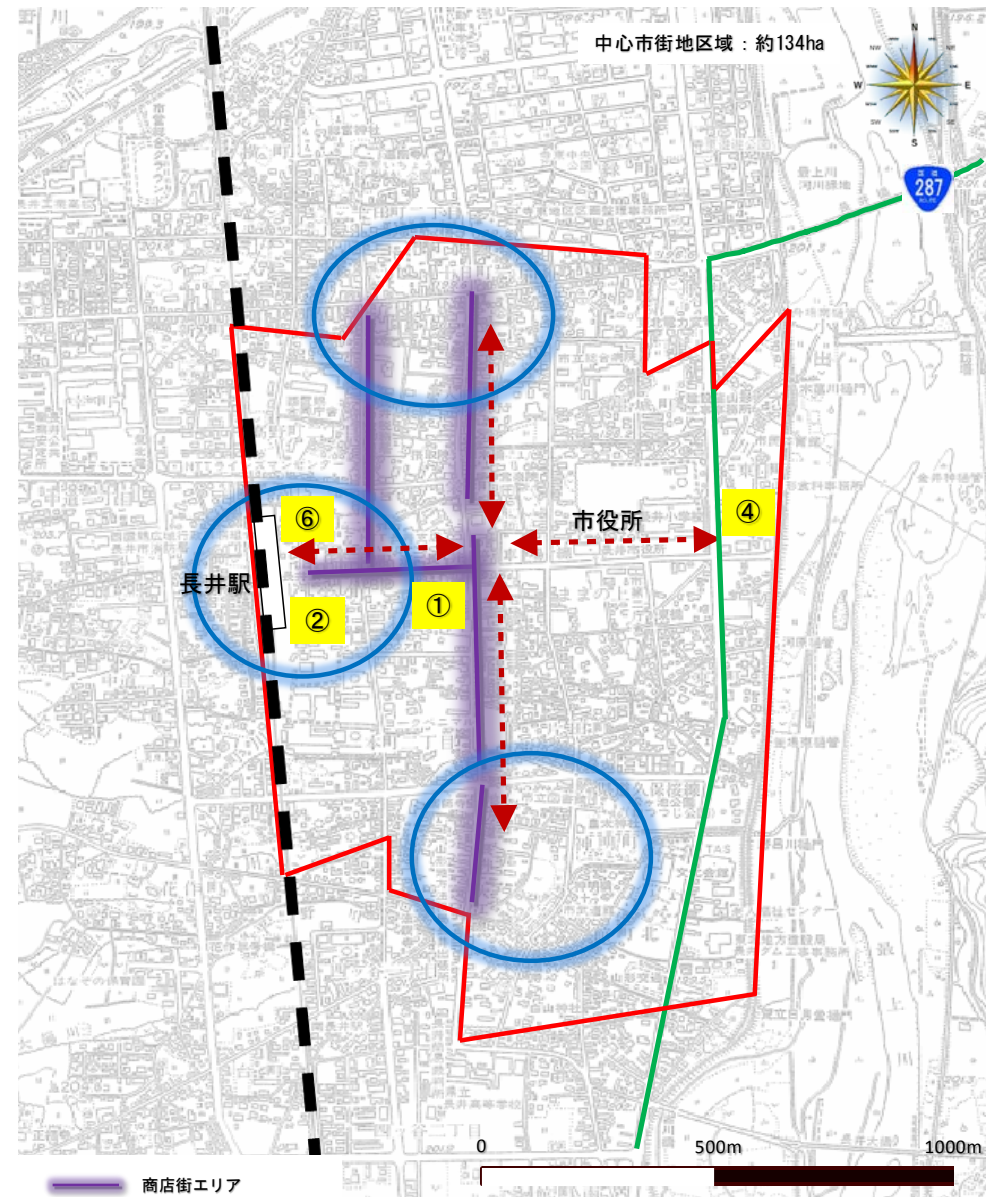
市内における様々な滞在型観光の取組みを推進し、まちなか観光の窓口機能等を観光交流センターに設置する。着地型旅行商品の企画・販売、人材育成等を行う取組を支援し、来街者の増加を図る。



⑤プラットフォーム事業イメージ

⑥フラワー長井線再生事業

長井駅を中心市街地へのアクセス拠点として位置づけ、移動手段以外の地域資源として活用し、交流人口の増加につなげる。



- 商店街エリア
- 人・モノ・情報の流れ
- 集客・交流エリア
- ③ ⑤ 区域全体事業